

## 令和3年度第1回総合教育会議 会議録

1. 日時	令和3年9月16日（木） （午後1時30分から）
1. 場所	市来庁舎 2階庁議室
1. 出席者	田畑誠一市長  相良一洋教育長 富永伸博委員・徳重涼子委員・福田恵一委員、福山希委員 瀬川教育総務課長・蔵菌学校教育課長・北山企画政策課長 書記 吉永教育総務課長補佐
1. 協議事項	特認校制度の見直しについて
事務局	只今から令和3年度第1回総合教育会議を開催します。 市長あいさつをお願いします。
田畑市長	皆さん、こんにちは。 教育委員の皆様には、日頃から本市の教育行政にご尽力いただきまして、心からお礼申し上げます。 9月に入りましたが、相変わらず厳しい残暑が続いております。コロナ禍の中でもあります。 皆様には、体調に十分気を付けていただきたいと思います。 さて、本年度も、昨年度に引き続き、全国各地で大雨等による大きな災害が発生いたしました。 九州に限って申し上げますと、8月豪雨では、九州各地に大雨特別警報が発令され、長崎県では、土砂崩れによる住家全壊などにより、6人の死傷者が見られました。 また、福岡・佐賀県では、多くの住家において、床上・床下浸水の被害が見られたところでもあります。 災害で亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様方に謹んでお見舞い申し上げます。 被災地の1日も早い復興を願うところでもあります。 本市では、これまで甚大な被害等はありませんでしたが、今後も、早めの避難所開設、避難指示発令など、安全確保に努めるとともに、自分の命は自分で守る意識の醸成など、防災意識の高揚を図り、いつ起こってもおかしくない災害への対応の充実に努めていきたいと考えております。

<p>事務局</p> <p>田畑市長</p>	<p>一方、収まりを見せない新型コロナウイルス感染症につきましては、本市においても、これまで感染者 57 名が出ており、中でも、8 月には 19 人の感染者が報告されています。</p> <p>8 月 13 日に出された県の緊急事態宣言が、まだ引き続いている状況であり、市としても、県に準じ、公共施設の休館等の対応を行うなど、感染症拡大防止対策に努めているところであります。</p> <p>また、9 月 1 日から学校の 2 学期が始まりましたが、県内でも学校現場ではコロナ対策の影響が出ています。</p> <p>一斉休校（薩摩川内市 9/1～9/5）や時差登校（鹿児島市・霧島市）を実施しているところもあるようです。</p> <p>本市は、通常どおりの対応で 2 学期を開始しましたが、引き続き、児童生徒が安心・安全で、健康的に学校生活を過ごせるよう、今後もコロナ感染症対策や、教育環境の整備に向け、教育長並びに教育委員の皆様と一緒に取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>さて、本日の総合教育会議においては、「特認校制度の見直しについて」ご協議いただきたいと思っております。</p> <p>本市の児童生徒数は、平成元年度では 4,883 人でしたが、令和元年度では 2,043 人となっており、この 30 年間で 2,840 人、なんと 58.2% の減少となっております。</p> <p>ここまで児童生徒数が減少いたしますと、これまでの施策も、実状を踏まえた見直しを行っていかなければ、時代の趨勢に取り残されたものになっていくことが危惧されます。</p> <p>特認校制度は、恵まれた自然環境の中で、小規模校の特性を生かして、個に応じた体力づくりや学ぶ楽しさを体験させたいと希望する保護者・児童に、通学区域を越えて入学・転学を認めるもので、平成 12 年度から実施しております。</p> <p>本年度は、38 名の児童がこの制度を利用し、特認校に通っております。</p> <p>一方で、近年、大幅な児童数の減少を受け、特認校に転学できる学校の小規模校化も進んでいます。</p> <p>本日は、今後の特認校制度のあり方について、教育委員の皆様と共通理解を図るため、お集まりいただいたところであります。</p> <p>スムーズな会の進行に心掛けてまいりたいと思っておりますので、御協力をよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、ここからの協議の進行は市長をお願いいたします。</p> <p>それでは、引き続き、会次第にしたがって会議を進めて参ります。</p>
------------------------	--

瀬川課長

3番目の「協議」に入ります。

「特認校制度の見直しについて」を議題といたします。  
事務局に説明させます。

特認校制度の見直しについて、ご説明申し上げます。

お手元に配付してあります資料1をご覧くださいと思います。  
資料に基づき、説明申し上げます。

まず、1番目に、「特認校」と「特認校へ転学できる学校」の児童数について掲げてあります。

上の表が特認校の児童数及び学級数です。本年5月1日現在の状況を掲げてあります。

旭小学校では、児童数は34人です。このうち特認校生が7人ですので、地元生は27人となります。

なお、学級数は4学級で、3年と4年、5年と6年が複式学級となっています。

また、6年後においては、表では5歳以下の欄になりますが、地元生だけを見ますと8人となり、全児童数が10人以下になることが見込まれ、完全複式の極小規模校になることが想定されます。

2番目の荒川小学校では、児童数が24人です。このうち特認校生が16人ですので、地元生は8人となります。各学年を見ますと、地元生は多くても3人で、地元生が1人もいない学年も2学年あります。

なお、学級数は、完全複式の3学級で、極小規模校に位置付けられます。

また、6年後においては、地元生だけを見ますと9人となっており、現在から引き続いて、地元生が10人以下であることがうかがえます。

3番目に川上小学校では、児童数が荒川小学校と同じく24人です。このうち特認校生が15人ですので、地元生は9人となります。川上小学校も各学年を見ますと、地元生は多くても3人です。

なお、学級数は3学級で、荒川小学校同様、すでに完全複式の極小規模校に位置付けられます。

また、6年後においては、地元生だけを見ますと12人となっており  
ます。

次に、2番目の表、特認校へ転学できる学校の児童数及び学級数です。

串木野小学校については、児童数が、本年度初めて600人を切り、589人となっています。未就学児の推移を見ますと、今後は、毎年減少していく一方であることがうかがえます。

学級数は、各学年3学級の18学級となっており、適正規模校に位置付けられます。

6年後においては、児童数は大きく減少し519人と想定されますが、まだ各学年3学級を維持しており、しばらくは適正規模の学校を維持できるものと捉えております。

また、特認校生については、現在、19人を出しているところです。

照島小学校については、児童数が、本年度初めて200人を切り、188人となっています。未就学児の推移を見ますと、今後は、毎年減少していく一方であることがうかがえます。

学級数は各学年1学級の6学級で、小規模校に位置付けられます。

6年後においては、児童数は161人と想定されますが、学級数は、しばらくはこのまま推移していくものと想像されます。

現在、特認校生を7人出しているところです。

市来小学校については、児童数が、本年度初めて300人を切り、298人となっています。また、未就学児の推移を見ますと、今後は、毎年、大きく減少していくことがうかがえます。

学級数については、これまで各学年2学級の12学級を維持してきたところですが、本年度は1年生が1学級となり、総体で11学級になりました。

このことから、国が示す適正規模を下回り、小規模校に位置付けられることとなります。

6年後においては、児童数が大きく減り、219人となることが想定されています。このままでは、学級数も、各学年1学級になることも想定しておかなければならないと考えております。

ちなみに、現在、特認校生を12人出している状況にあります。

次に、2の特認校制度を取り巻く現状についてです。

ただ今、「特認校」、また「特認校へ転学できる学校」の現状について説明いたしました。その現状等を踏まえまして、特認校制度の現状を記してあります。

1点目に、「少子化の進行に伴い特認校に転学できる照島小学校、市来小学校の児童数の減少が進んでいる。特認校制度開始時は、両小学校とも全学年2学級以上となっていた。」ということです。

特認校制度は、串木野地域では平成12年度に、市来地域では平成16年度に開始されております。

そこで、制度発足当時、平成12年度の照島小学校、市来小学校の児童数、学級数について申し上げますと、照島小学校が466人の15学級、市来小学校が413人の14学級ありました。

現在と比較しますと、照島小学校で278人、9学級の減、市来小学校で115人、3学級の減となっており、これまで照島小学校が大きく減少してきたことがうかがえます。

次に、2点目です。「現在、照島小学校においては、生福小学校同様、

全学年1学級となっている。1年生は20人しかいない。今後は、概ね20人前後の入学者しか見込めない状況にある。しばらくの間は全学年1学級が引き続くと考えられる。」ということです。

次に、3点目です。「市来小学校では、1年生が1学級に減少している。今後の入学者も35人前後が想定され、1～2学級の境にあることが窺える。特認校児童を出すことにより、2学級から1学級に減少することも想定される。」ということです。

ちなみに、令和3年度から、2年生以上も35人学級に順次引き下げられ、令和7年度ではすべての小学校の学級が35人学級となります。

市来小学校においては、先ほども申し上げましたが、今後、児童数が大きく減少することが見込まれており、6年後は、現在から79人減の219人となることが想定されています。このままでは、学級数も、各学年1学級になることも想定しておかなければならないということでもあります。

次に、4点目です。「特認校へ入学・転学している児童数は、串木野小学校が19人、照島小学校が7人、市来小学校が12人となっている。」ということです。

現在、串木野小学校から、旭小学校へ5人、荒川小学校へ12人、川上小学校へ2人、特認校児童を出しています。

照島小学校からは、旭小学校へ2人、荒川小学校へ4人、川上小学校へ1人出しています。

市来小学校からは、川上小学校へ12人の特認校児童を出しています。それでは、裏のページ、2ページをご覧ください。

3の特認校制度の課題についてであります。

現状等を踏まえまして、課題を整理したところであります。

まず、1点目が、「現住所地の通学区域の学校において、対象学年が学級減になる恐れが生じる時、または、対象学年の児童数が少なく、学級運営に支障が生じると見込まれる時は、特認校への入学・転学を許可しないことを検討すべきである。」ということです。

2点目として、「特認校へ転学できる学校」に位置付けられている照島・市来小学校が、児童数の減少により、小規模校化していることを踏まえると、「特認校へ転学できる学校」として続けることは、両学校の教育環境を整えることに影響を及ぼすのではないかと考える。」ということです。

3点目として、「急速に進む児童生徒の減少を見ると、どのような教育環境が望ましいのか、学校統廃合を含め、検討する時期にきていると考える。」ということです。

これらの、現状、課題等を踏まえまして、次のとおり、今後の方針案を取りまとめましたのでご覧いただきたいと思えます。

4の今後の方針（案）についてであります。

1点目に【方針案】です。「照島小学校、市来小学校については、児童数、学級数が減少していることを考慮し、令和4年度から、特認校への転学・入学を認めないものとする。」と掲げました。

2点目に【経過措置】です。「現在の照島小学校区、市来小学校区の

	<p>特認校児童については、本人及び保護者の申し出により、原則、卒業までは現在通学している特認校への通学を認めるものとする。」といたしました。</p> <p>3点目に、【特例措置】です。「現在の照島小学校区、市来小学校区の特認校児童の弟・妹が新1年生の場合は、令和4年度に限り、その兄・姉と同じ特認校への入学を認めるものとする。」としたところです。</p> <p>4点目に、【学校統廃合】について述べてあります。「児童・生徒の急速な減少に伴い、早急に小・中学校のあり方について検討・協議し、住民の理解を得ながら、統廃合計画案（再編計画案）等の策定を進めていく。」とし、小中学校の統廃合に取り組んでいくこととしております。</p> <p>以上で、説明を終わります。</p>
田畑市長	<p>事務局に「特認校制度の見直しについて」説明をさせましたが、教育委員の皆様から御意見などございませんか。</p>
福田委員	<p>特認校をしていくために、人数が減ると学校運営に支障をきたすということで、照島小学校、市来小学校は難しい状況にあるようですが、もし、仮に今の状態の中で、特認校を続けた場合に今後、照島小学校と市来小学校については、極端な学級減が見込まれますか。今のペースで特認校生があった場合、どれくらいの学級減となりますか。</p>
瀬川課長	<p>現在の照島小学校、市来小学校についてでございますが、もう照島小学校はすでに各学年1クラスとなっています。特認校生については、1ページの照島小学校をご覧くださいと、各学年1人は特認校生を出している状況です。</p> <p>今後、20人前後の1クラス編成になってまいります。</p> <p>そういったことから、学校規模的適正化委員会から提言等もありませんか。やはり小学校は1学年15人から20人程度を超えることが望ましいという提言がなされており、あまり少なくなると音楽活動であったり、スポーツ活動であったり、1学年の人数が少なくなることによって、学級運営については学校運営に影響を及ぼすことも想定されます。</p> <p>市来小学校におきましては、現在、1クラスの人数が35人というふうに国では決められておまして、35人以下は1クラスになります。</p> <p>現在の市来小学校の1年生は35人となっていますが、3人が特別支援教室におり、普通教室には32人となっています。</p> <p>次年度市来小学校の1年生は39人を見込んでいますが、ここから特認校生、特別支援の子どもが抜けると考えると、36人におさまれば2学級となりますが、35人を下回ると1学級になります。</p> <p>来年度以降の住民基本台帳に基づく入学見込者をみても43人、36人</p>

	<p>となっている状況もあることから、35人枠を少しでも超えて2学級を目指した方がいいのではないかと考えてこのような対応をしたところであります。</p>
<p>福田委員</p>	<p>照小の方は、学級数の変動はないということですね。</p>
<p>瀬川課長</p>	<p>住民基本台帳に載っている人数の推移を見ましても、35人を下回っていることから、1学年1学級は変わらない状況です。</p> <p>ただ、0～2歳児になると、20人前半となっており、おそらくここから特別支援学級に入る子ども、神村学園とかもありますので、私立小学校に抜ける子ども、さらに特認校生で抜ける子どもがいると、十数人の学級になることも想定されます。</p>
<p>福田委員</p>	<p>串木野小学校もあまりたくさん特認校生が出ると、3学級が2学級に可能性もあるのではないのでしょうか。</p>
<p>瀬川課長</p>	<p>1学級が35人ですので、現在の住民基本台帳に載っている人数からすると、各学年3学級を維持できる人数にはなっていますが、2歳児などは73人であり、特別支援の子どもや特認校生の影響により、70人を下回り2学級になる可能性はあります。</p>
<p>富永委員</p>	<p>特認校制度が出来た経緯の中で、小規模校の教育環境の改善。いわゆる人数が少なくなるとなかなか思ったような教育が難しくなり、そういった意味も含めて特認校制度が始まったと思います。</p> <p>そういう中で、照小・市来小から特認校への転学がなくなった場合、小さな学校からの視点で見ますと、教育環境が悪くなっていくのではと思います。</p> <p>例えば、照小については、これ以上の学級数の減はみられません。全体的な児童数は減となりますが、最近の状況からは、1学年に毎年、約1人の特認校生が見込まれることが予想されます。</p> <p>そういった中で、小規模校の教育環境を維持することを考えると、ばさっとやることがいいのかと思います。</p> <p>例えば、川上小はほとんど市来小ですから、地元児童9人しか子供たちがいなくなることが予想されます。</p> <p>そうすると、おのずと学校統廃合のことも考えなくてはいけなくなります。そこまでの間、教育的観点からどうするのかも考えなければいけないと思います。</p> <p>私は、特認校制度を見直す前に統廃合とか必要だとやるのであれば考えておかなければいけないと思います。</p>

<p>瀬川課長</p>	<p>特認校制度というのは、小規模校の教育環境を落とさない意味もあったと思います。</p> <p>照小・市来小の学級数が1学級増えるのであればいいと思いますが、今の状況では学級数は増えない状況であります。</p> <p>10年、20年先には統廃合という形になっていかざるを得ないと思いますが、その過程の中で小規模校の教育環境である人数も考えるべきではないかと思います。</p> <p>小規模校の教育環境についてであります。今回、照小・市来小を除くと串小だけしか特認校への転学を認めないこととなります。</p> <p>現在、串小からは旭小へ5人、荒川小へ12人、川上小へ2人の特認校生がいる状況であります。</p> <p>子どもの転学を認める学校の状況としては特認校制度を導入する際、2学級以上の学校から転学を認めるということで、平成12年度の照小は15学級、市来小は14学級、生福小は6学級があり、照小・市来小は転学できる学校として指定した経緯があります。</p>
<p>富永委員</p>	<p>大きな学校の事情もわかります。</p> <p>一方、小さな学校の教育環境は児童数が落ちることで、厳しいと思います。小さい学校への教育環境のテコ入れをどう考えるかが大事だと思います。</p>
<p>瀬川課長</p>	<p>今後、小規模校については、地元生をみても児童数は8人、9人という状況であります。</p> <p>当面は中学校の統廃合を先に進めることとなりますが、やはり、このような児童生徒の減少を考えていきますと早急に小・中学校の統廃合についても検討・協議を始めなければならない状況だと思っています。今後、住民との意見交換を交えながら、学校統廃合に舵を切らなければならない状況になっていると考えています。</p>
<p>相良教育長</p>	<p>一長一短があると思いますが、学校の統廃合などは、児童・生徒の減少の幅を見据えてスタートを切らないとこれが本当に小規模化してしまい、特に中学校の例では、部活動の問題、教職員の適正配置などが十分にできない状況があります。</p> <p>最近、阿久根市も学校統廃合方針を出しておりますが、近隣の各市も統廃合を進めている状況であります。</p> <p>子ども達にとって、教育環境の小規模化は如何なものかということから、各市においても統廃合を進めている状況であります。</p>



徳重委員	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>学校の統廃合が進んでいるところは、進める前と進んだ後の子ども達の状況等は良くなったのでしょうか。</p> <p>統廃合してよかったという声が多かったのでしょうか。</p>
蔵菌課長	<p>以前、始良・伊佐地区におりまして、伊佐市が中学校の統廃合を行い、現在2校となっています。</p> <p>中学校においては、やはり部活動のこととか、教員の適正配置がありますので、ある程度の人数がいないと免許を保有する先生が配置できないとか、どうしても臨時免許で他の教科を持たないといけないとかそういった面が出てきますので、学習環境としては学校が大きくなればなるほど恵まれる面があると思います。</p> <p>ただ、色々と整えていかないといけないところが当然あり、通学においては、距離が長くなりますからスクールバスを出すなどそういった面での整備が必要となります。</p> <p>中学校ではメリットはあると思います。</p>
徳重委員	<p>小学校はどうでしょうか。</p> <p>小規模校は、すごく体験入学も実施されており、前より川上小は増えている状況が伺えます。</p> <p>小規模校のやり方がいいのかなという気が私は思うところもあります。ただ、人数が少なくなるからということで、簡単に考えてもいいものかと思ったりもします。</p> <p>学校現場にいないので、分かりませんがどのようなものなのでしょうか。</p>
瀬川課長	<p>現在の特認校は完全複式の学校になっています。</p> <p>制度導入当初は、5学級であったりしましたが、今では完全複式になって1、2年生が同じ学級で勉強をしています。まあ言えば、1時間の半分は1年生を先生が教え、残りの半分は2年生を教え、そのあいた時間はそれぞれ自習だという状況が果たしていいのかどうなのかと思います。そのあたりが実際、我々も先生ではないのでなかなか難しいですが、そういう状況を踏まえ本来なら数が少なくても各学年1学級であれば、そういう学校を特認校として指定した方がよいのではと思っています。</p> <p>国としても、複式学級の改善を言われている中で、子ども達の将来を考えた時、本当にそれがいい方向に働くのかも検討していかなければならないと思っています。</p>

相良教育長	<p>以前2学年最高16名のうち、3・4年生でしたが15名を受け持ったことがあります。2つの学年を教えないといけないから、半分しかみられないことは当然そうですね。</p> <p>サブティーチャーという子ども達がリードして、教師がいないときはその学習を進めていました。4年生が済んだら今度は移って3年生を教え、その間、自分たちで学ぶというそういう学習の方法を指導課程の中で組み込んでいました。そのことをよく教え込んで、学習のスタイルを植え付けるまで、ものすごく時間がかかります。</p> <p>低学年である1、2年生は中々できませんが、3、4年生になるともう2年やっていますから段々慣れてきます。そして、前後ろで授業を行っていますが、となりの学年のことがよく聞こえますので、頭に入って混乱することもあります。よし悪しはありますが、中々学習効果をあげるには、難しいところがあります。</p> <p>教師の負担は、2学年教えるから2倍の負担を思われるかもしれませんが、実際にはいろんなことをするので3倍かかります。人数は少ないにしても、教師は2学年の授業を進めるためのいろんな準備等で多忙になりますので、かなりの負担がかかります。</p> <p>また、1例ですが、先生が2年で1つの指導計画を教えないといけないという時に、親の転勤により教わらないうちに途中で転校する場合などもあります。</p> <p>いい面、悪い面いろいろありますが、このようなことを考えると、複式学級はなかなか難しい面があるのではと思います。</p> <p>小学校の統廃合をすぐにやるという訳ではありませんが、中学校の場合は、特に高校進学がありますので、専科の先生の配置をすることが、子ども達の教育環境を整えるためにも必要だと思います。</p> <p>今の串中であっても307人の生徒がいますが、十分ではありません。専科の先生がすべて配置されている状況ではありません。現状では、臨時の免許を取ってもらって、免許をもっていない先生がその教科を教えるところもあります。これが、350～400人の生徒がいますと、すべて専科の先生になります。現在の本市の全中学生は650人ほどいますので、仮に1校になると十分な教職員の配置や部活動の充実が図られることになります。</p>
福山委員	<p>今後の方針（案）の（3）特例措置についてですが、「令和4年度に限り、その兄・姉と同じ特認校への入学を認めるものとする。」と書かれていますが、今の4歳児未満の子どもさんの中で、現在、照小・市来小から特認校へ行っている兄弟等はいらっしゃるのでしょうか。</p>
瀬川課長	<p>現在のところ市来小には、3歳児の兄弟が1人います。</p>

<p>相良教育長</p>	<p>この件については、いろいろと協議を行いました。特認校生の弟、妹の入学を許可し続けると、後からもどんどん増えることとなります。その子が学校に入っても、もしかすると途中で打ち切る状況もあるかもしれませんので、6年間すべて通わせるためには、保護者への周知期間を考慮して1年間は、兄弟等は特認校生を認めることとしたところです。</p> <p>複式学級の標準は、3、4年生の場合は16人までが定数となっており、それを超えると単式になります。1、2年生の場合は、1年生が1人いた場合は8人までが定数となります。1年生の入学者数によって、クラス編成が変わることがあります。</p> <p>先日、川上小の校長とも話をしましたが、例として、川上小の3、4年生をみると10人となっており、16人までが定数ですのであと6人は入れることとなりますが、どんどん特認校生が増えることによって、ものすごく教職員の仕事への負担が上がり、学校の担任は本当に大変だということを意見交換もしたところです。</p> <p>学校の事情はそういった面もあり、やはり2倍の教科の指導があり、通常の3倍の労力がかかることも考慮すべきだと思います。</p>
<p>田畑市長</p>	<p>この件について、結論の時期的なスケジュールはどのようになっていますか。</p>
<p>瀬川課長</p>	<p>今回の見直しを次年度の募集にあわせるならば、例年、広報紙を利用して特認校生を募集している10月号の広報紙となります。</p> <p>特認校制度を変更するのであれば、募集にあわせていろんなことを住民の方々に周知する必要があると思います。</p> <p>また、広報の前に議会への報告も必要となってくると思いますので、9月議会の最終日には報告したいと考えています。</p> <p>来年度反映するのであれば、今回で方向性を決定して頂きたいと思います。</p>
<p>田畑市長</p>	<p>今までの経緯からいろいろなことを考えますと、来年度からするからといって10月にお知らせした場合、なかなか理解を得にくいのではないかと感じます。</p> <p>こういった方針で、望みたいということは今から広報し、1年後に決めなければ保護者の立場から考えると急な話に感じます。</p> <p>大事なことは、子どもが主役ですから子どもの成長過程ということで考えた時、この先6年間を見通したときにもう子供が減ることはあきらかだと思っています。</p>

<p>北山課長</p>	<p>このような状況と子どもの教育成果があがる方法を両方睨み合わせながら、決めないといけないと思っています。</p> <p>学校の統廃合もやむを得ない時期にきていると思います。</p> <p>いずれにしても、1年ぐらいこういったことをお知らせし、1年後から今回の見直し内容を進めることが大切だと感じます。</p> <p>今、市長がおっしゃったとおり、子どもは年々減っています。</p> <p>例えば来年度の川上小であれば、小学1年生では地元には1人しかいない中で、募集した結果、同級生が1、2人しかいなかった状態などは、将来を考えた時どうなのかと感じます。やはり、少なくとも通常人数の同級生がいることが、将来のために多くの経験が積まれるのではないかと思います。</p> <p>子どもの視点で立った時、1、2人より多人数の方が切磋琢磨競走することもあって、いい経験が積まれると考えれば早く取り掛かる必要はありますが、今の段階では市民の理解を得た上で、進めることが大切だと思います。</p>
<p>富永委員</p>	<p>特認校制度云々するよりも先に統廃合だと思います。</p> <p>統廃合しないといけないような学校を子供が少ないから特認校生である程度人を補って教育環境を整えていると思っています。</p> <p>統廃合を置いて、特認校制度を見直すことは如何なものかと思います。統廃合を5年後には検討しましょうとか地域出身の子ども達が10人未満になったら検討しましょうとかの方が、地域とのコミュニケーションをとっていくうえでも大切ではなかろうかと思います。</p> <p>急に特認校制度を廃止して、まだ統廃合は後ですよといった時、その間の子どもの教育は大変ではなかろうかと感じます。</p> <p>統廃合を検討する中で、特認校制度を考えた方がよいのではと思います。</p>
<p>田畑市長</p>	<p>主役は子ども達ですよね。1年間は1年生の時、2年生は2年生の時、6年生は6年生の時に、あらゆる分野における教育というのを受けて、身に付けていかなければなりません。そういった考え方の中、これから先6年後は子ども達が少なくなることは、はっきり目に見えています。将来は統廃合に立ち入らなければならないという時点にきていると思います。</p> <p>確かに例えば川上小でいいますと、特色ある学校づくりをされて全国的にもマスコミで高く評価され、先生方が活躍されています。</p> <p>子ども達もマンツーマンで教える先生方の姿勢に打たれて、さらに子ども達も意欲を高めて、今、非常に評判がよく、川上小の特認校に</p>

	<p>行こうという状況があります。</p> <p>しかしながら、全体的に成長していく過程の中で、総合的な捉え方をすれば、やはり一定の児童がいる中で、切磋琢磨することが結果として成長に繋がると思います。</p> <p>そこで、問題は子ども達が主役ですが、地域の皆さんとか保護者の方々などいろんな方々の意見があると思いますが、議論して最終的な決断をしなければならないと思います。</p> <p>そういった点を考えれば、今回の見直し点について来年度から実施するとしたら、理解は得づらいと思います。</p> <p>来年のために議会に報告して、お知らせ版も出して、照小・市来小からの特認校生は認めません、兄弟しか認めませんということは、急なことでしか写らないと思います。</p> <p>教育委員会の皆様には、ご苦勞ではありますが、地域の皆様にはまずはこの資料にあります状況を広めた方がよいのではと考えます。</p> <p>色々皆さんからご意見が出ましたが、1年間は市民の皆様へ周知を図り、1年後から進めたらどうでしょうか。</p> <p>ただし、令和5年度から今回の方針で進めることでどうでしょうか。</p>
瀬川課長	<p>市長の結論への提案がありましたが、ただし、対象学年が学級減になる恐れが生じる場合は、特認校への入学・転学を許可しない場合があることを一応理解して頂きたいと思います。</p> <p>もし、市来小がそのままいけば2学級を維持できるのだけれども、特認校生が出ることによって、1学級になるような状況を生じるのであれば、ちょっと我慢してもらい、2学級になる方向で進めることをご理解頂きたいと思います。</p>
福田委員	<p>現実問題として、親から特認校へ行きたい申し出があった場合、すぐに許可が出るものなのでしょうか。</p>
瀬川課長	<p>まず、保護者から申込書を各学校に出して頂きます。その後、学校を経由して教育委員会に申込書が提出されることとなっています。それを基に教育委員会において面接が実施され、許可・不許可を決めていくこととなっています。これまでの不許可の例では、特別支援の必要な子どもの申出がありましたが、そういう時は保護者に了解を得て断った例があるところでもあります。</p>
福田委員	<p>例えば、本校の児童が少なくなって学級減となる場合、こういう規則があるから許可できませんといったものがあるのでしょうか。</p>

瀬川課長	<p>広報紙における募集において、去年もそういった旨を周知しているところであります。今回の周知では、さらにもう少し住民の方が理解できるように見やすく広報してまいりたいと思います。</p>
田畑市長	<p>ほかにございませんか。</p> <p>それでは、皆さんと協議した内容をまとめさせて頂きたいと思います。</p> <p>来年度から、照小・市来小から特認校への転学・入学を認めないことについて協議を行ってまいりましたが、結論として、まず、今回の内容については、1年間は市民の皆様への周知を図る期間とする。</p> <p>ただし、令和5年度からは今回の方針で進める。</p> <p>また、これまでも広報紙で周知しているが、学級編成に支障がある時は特認校への入学・転学を許可しない場合がある旨を市民に理解しやすいように広報する。ということで皆さんよろしいでしょうか。</p>
教育委員	<p>(異議なし)</p>
田畑市長	<p>それでは、今回の内容については、「1年間は市民の皆様への周知を図る期間とする。」「ただし、令和5年度からは今回の方針で進める。」</p> <p>また、「学級編成に支障がある時は特認校への入学・転学を許可しない場合がある旨を市民に理解しやすいように広報する。」ということで皆さんよろしくお願ひします。</p> <p>協議事項については、以上で終わります。</p> <p>次に、4の「その他」に入ります。</p> <p>教育委員の皆様から何かございませんか。</p>
教育委員	<p>「なし」という声あり。</p>
田畑市長	<p>事務局からはありませんか。</p>
藏菌課長	<p>はい。事務局からご報告をしたいと思ひます。</p> <p>(いじめ調査委員会の状況について報告)</p>
田畑市長	<p>ほかにありますんか。</p>
事務局	<p>ありません。</p>
田畑市長	<p>なければ、教育委員の任命について報告いたします。</p> <p>来たる11月25日をもって、福山委員が、教育委員の任期満了とな</p>

	<p>ります。</p> <p>委員には、保護者委員が含まれなければなりませんので、再度、福山委員にお願いしたところ、快く引き受けていただきました。</p> <p>9月議会の最終日、24日に議会に任命議案を提案することとしておりますので、お知らせいたします。</p> <p>委員の皆さまからほかに何かありませんか。</p> <p>ありません。</p> <p>それでは、以上で令和3年度第1回総合教育会議を閉会いたします。今後も、市当局と連携を密にしながら、教育行政の推進・充実にお力添えいただきたいと思います。</p> <p>これまで、本当にありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">(午後3時40分)</p>
--	--